

ZENBUTSU

全仏



No.
510

仏暦2548年 8月
[2005年]



(世界遺産：ルンビニー園、新マヤ堂 撮影=全日本仏教会)

CONTENTS

特集————— ルンビニー園復興事業終結へマヤ堂考古学調査報告書が完成—
「アショーカ王と仏教 ～マヤ堂出土印石の意味をめぐって～」 奈良康明

報告————— 理事会・評議員会開催
日中友好の継続と世界平和推進のため、曹洞宗有田宗務総長が訪中
「個人情報保護に関する研修会」 個人のデータは預かりもの
葬儀業界と懇談

事務総局録事



財団法人 全日本仏教会
Japan Buddhist Federation
世界仏教徒連盟(WFB)日本センター
Japan Regional Center of World Fellowship of Buddhists

評議員会・理事会開催

本会の評議員会・理事会が、五月二十四日、リーガロイヤルホテル東京を会場に開催された。

はじめに「仏教徒の歌」を斉唱。続いて里見達人理事長を導師に、三帰依文唱和が行われた。続く会議では、平成十六年度の事業報告や収支決算等が審議された。

評議員会

本会寄付行為に基づき、萩野映明師（埼玉県佛教会）を評議員会議長に選出した後、議事録署名人に赤松達明（黄檗宗）、英良智（念法真教）の両師を選出して議事に入った。

●議案第一号「理事の変更について承認を求める件」

理事の辞任ならびに遷化に伴い、残任期間を就任する理事の承認が全会一致でなされた。

退任 松原功人師（浄土真宗本願寺派）
坂本徳雄師（和宗） 遷化
森 和久師（学識経験者）
就任 武田昭英師（浄土真宗本願寺派）
森田俊朗師（和宗）

○協議事項第一号「平成十六年度事業

報告について意見を求める件」
○協議事項第二号「平成十六年度収支決算について意見を求める件」

萩野議長より関連事項のため一括上程。櫻井英幸総務部長、宮川宏生財務部長より詳細な説明が為された後、仲田順和監事が監査報告を行った。全会一致で賛同の意が示された

○協議事項第三号「財団創立五十周年記念事業大綱について意見を求める件」

萩野議長より上程。財団創立五十周年記念事業準備委員会中正宣委員長より平成十七年五月二日付、里見理事長に提出された「財団創立五十周年記念事業の概要（第二回）」を中委員長が報告書を読み上げ、続いて宮川財務部長が同事業の大綱案を説明。さらに松濤弘道理事が五十周年記念事業のWFB世界仏教徒会議日本大会開催の意義と理解を訴えた。協議の後、全会一致で賛同の意が示された。

理事会

本会寄付行為に基づき、里見達人理事長を議長に、議事録署名人に小林正

道（浄土宗）、大谷博通（東京都仏教連合会）の両師を選出し議事に入った。

●議案第一号「平成十六年事業報告について承認を求める件」

●議案第二号「平成十六年度収支決算について承認を求める件」

里見議長より関連事項のため一括上程。評議員会の協議事項第一号、第二号の意見を受け、審議を行った。原案通り全会一致で承認可決

●議案第三号「財団創立五十周年記念事業大綱について承認を求める件」

里見議長より上程。評議員会の協議事項第三号の意見を受け、審議を行った。原案通り全会一致で承認可決

報告事項（評議員会、理事会）

一、ルンビニー園復興事業現況報告

本間孝康ルンビニー委員会委員長が二十有余年に亘った本事業の現況報告。平成十五年七月二十九日開催の理事会の合意に基づき、マヤ堂考古学調査報告書、ルンビニー園復興事業記録冊子の両書が完成したことが報告された。

会議終了後、別室にて報告会を開催し、考古学調査報告書刊行に携われた坂詰秀一立正大学元学長、奈良康明駒澤大学総長、塚本啓祥東北大学名誉教授が報告（本誌四頁掲載）。

また、考古学調査記念プレートは、六月下旬ネパールへ赴きルンビニー開発トラスト（LDIT）へ、マヤ堂周辺に設置を要請（本誌五頁掲載）。今後は、資料の整理、会計精算の後、理事会・評議員会の承認を得て早期に本委員会を解散することも了承された。

二、憲法改正論議についての報告

平成十七年一月二十六日開催の評議員会・理事会において協議事項の本件につき、櫻井総務部長が報告。本会の同和委員会、信教の自由に関する委員会、国際委員会に理事長諮問がなされ、各委員会では、検討を進めている。尚、加盟団体に対し一層の調査研究と検討を要請した。

三、事務総局各部報告

総務部

・（財）日本宗教連盟の件

今年度の（財）日本宗教連盟理事長に本会の里見理事長、同事務局長に齋藤事務総長が就任し、併せて本会が事務



リーガロイヤルホテル東京で行われた評議員会、理事会

六月二十一日(火)午後一時
於 真宗大谷派真宗本廟視聴覚ホール
・第十五回同和推進担当者研修会開催
六月二十二日(水)午前八時三十分
於 真宗大谷派宗務所
社会部
・個人情報保護に関する研修会開催
六月三日(金)午後一時
於 浄土宗大本山増上寺・三縁ホール
国際文化部
・インド洋沖地震アンダマン海津波犠
牲者追悼法要の件
タイ国政府からの要請を受け、去る
五月七日・八日同国のカオラックとプ
ーケットにおいて追悼法要を厳修。法
要団は、藤井日光会長の宗派である日
蓮宗に要請し、総本山身延山久遠寺井
上瑞雄総務を団長に二十名が出仕、本
会事務総局から三名が同行した。
(本誌五〇九号掲載)

・朝鮮半島出身者遺骨所在調査の件
外務省、文化庁より同伴について本
会に全国の寺院への調査協力の要請が
あり、さらに詳細な依頼を待って対処
することが報告された。

・WFB(世界仏教徒連盟)よりの書
簡の件
WFB本部より二〇〇八年頃を目途
にWFB世界仏教徒会議日本大会開催
の要請文書が届いた。大会開催国の名

局を担当することが報告された。
・比叡山宗教サミット十八周年記念世
界平和の祈りの集い後援の件
例年通り後援することを報告。
・「第三十九回現代名僧墨蹟展」推薦
の件
例年通り推薦することを報告。
・「第八回仏教讃歌リサイタル」チャ
リティーコンサート後援の件
後援することを報告。
・映画「わらびのこうくろ蕨野行」広
報の件
生死を描き、仏教の心と通じる映画
であると説明。
同和推進部
・第二十五回人権啓発研修会開催
「ハンセン病問題に関する検証会議
の意義と今後の課題」

乗りをあげた場合、WFB本部は全面
的な支持を表明している。
・BNNニューズレターの件
BNN(仏教NGOネットワーク)
の近況報告と活動への協力を要請した。

財団法人全日本仏教会

創立五十周年記念事業大綱(抜粋)

【事業大綱】

全日本仏教会は平成十九(二〇〇七)
年に財団創立五十周年を迎える。
この節目の年に当っては、関係者の心
情としても感慨深く、内外からの注目や
関心を集めやすいタイミングとなる。お
りしも全日本仏教徒会議が第四十回を迎
え、また長年の懸案であったWFB世界
仏教徒会議日本大会の開催を通して「普
段からの懸案事項を解決に移す好機」と
捉え、記念事業を推進する。

今日宗教界を取り巻く環境は厳しさを
増している。世界規模での宗教戦争の勃
発や環境破壊、凶悪事件の頻発、高齢化
社会における心のケアの不備、若者の宗
教離れ等々。そして、これらの課題に十
分応えきれない宗教(仏教)界の不満と
不信感の増大。

こうした時代背景に五十周年事業を通
して、伝統教団の社会的役割を広く国民
に、あるいは世界の仏教徒に示す機縁と
する。

※本評議員会は、各種委員会委員等の
傍聴が許可された。終了後、ルンビニ
一園復興事業報告会・マヤ堂考古学調
査報告会・レセプションが行われた。
(本誌四頁掲載)

【テーマ】

記念事業に一貫した理念をもたすため
「地域の縁(起)アジアの縁(起)」のもと
に各事業に取り組むものとする。

【事業計画】

- 平成十七年度
八月 創立五十周年記念事業案・予算案承認
創立五十周年記念事業実行委員会発足
- 十月 事業開始(平成十七年十月一日)
調査研究(伝統仏教界の課題と
対応)
- 平成十九年度
財団創立五十周年式典
WFB世界仏教徒連盟執行委員会
第四十回全日本仏教徒会議
- 平成二十年度
第二十四回WFB世界仏教徒会議
日本大会
- 五十周年記念誌編纂(発刊)
事業終結(平成二十一年三月三
十一日)

ルンビニー園復興事業終結へ

マヤ堂考古学調査報告書が完成

釈尊生誕の印石発見、その文化的・宗教的意義を示す

本会は五月二十四日、午後四時半から、リーガロイヤルホテル東京で、「ルンビニー園復興事業 マヤ堂考古学調査報告会」を開催し、考古学調査報告書『ルンビニー マヤ堂の考古学的調査』と、事業記録冊子『ルンビニー園復興事業の歩み』の完成並びにその成果を発表した。

ルンビニー園復興事業は一九六七年に当時の国連のウ・タント事務総長の提言により始められ、一九七八年に国連からの依頼により丹下健三氏がマスタープランを作成。

同年日本で開催された第十二回世界仏教徒会議での決議を受け同事業は、



右から奈良康明師、塚本啓祥氏、坂詰秀一氏、齋藤明聖事務総長

開始された。その後、ネパールが本会に考古学者の派遣を要請。これを受け本会は、上坂悟氏をルンビニーへ派遣し一九九二年から一九九五年までマヤ堂の考古学調査を実施した。またマヤ堂はネパール政府の手により再建され、二〇〇三年五月竣工した。

二〇〇三年急逝した上坂氏が残した調査資料をもとに、恩師の坂詰秀一教授（立正大学元学長）と研究室の協力を得て報告書は完成した。

報告会では里見達人理事長の挨拶に続き、坂詰教授、塚本啓祥・東北大学名誉教授、奈良康明駒澤大学総長がそれぞれ専門の見地から報告を行った。

坂詰氏は、考古学的見地から、マヤ堂の遺構がマウリヤ期（紀元前四〜二世紀）まで遡れること、またマヤ堂直下から出土した印石は、アショーカ王がルンビニーを訪れる以前からそこに安置されていた可能性を指摘した。

続いて塚本氏は、この所見を踏まえて文献学的見地からアショーカ石柱碑文の再解釈を行い、アショーカ王がルンビニー園を訪れた際、釈尊が生誕されたことと伝えられる自然石を保護する柵、

または壁を伴った建造物を設営せしめ、石柱を建立したと碑文に残したと推察出来ることを報告した。

奈良師は、ネパール及び日本で開催された国際専門家会議や本会のルンビニー園復興事業に関わった経過を振り返りながら、印石の発見が持つ仏教文化史的重要性を強調した。さらにネパールのみならず広く世界に於いて文化的・宗教的にも大きな意義があることを強調した。

終了後、記者会見が別室で行われ、報告内容について詳細な質疑がおこなわれた。

本事業の推進は、ネパールと日本の国民性の違い、また、ネパールの政変などの影響を受け、困難を極めた。

発刊記念レセプション

報告会に引き続き行われたレセプションには、加盟団体関係者や長年ルン



挨拶する川井恭子氏と上坂とよ子氏(右)

しかしこの度、マヤ堂考古学調査報告書が完成し、約二十五年に亘った本会のルンビニー園復興事業はひとまず終結を迎えることとなった。

本事業に関わった多くの関係者、本会OBなど多数出席のもと盛会であった。

尚、考古学調査報告書、事業記録冊子の頒布は、本誌二十頁に掲載しております。

* * *

六月七日の読売新聞(手帳)、東京新聞(心のページ)の夕刊に、本会ルンビニー園復興事業の経過やマヤ堂考古学調査の成果として、マヤ堂直下から発見された釈尊生誕の地を示す印石の意義について詳しく紹介された。

ルンビニー園復興事業に関わった歴代の委員や本会OBらが多数参集した。

また、元ルンビニー委員会委員長で志し半ばで遷化された故川井匡俊師の恭子夫人や、考古学調査を行った故上坂悟氏のとよ子夫人も会場に駆けつけた。恭子夫人は、「今日が主人の命日で、ルンビニー事業の終結を一番喜んでほしい」と語り、出席者はルンビニー園復興事業の一様の終結を祝った。

ネパールカトマンズで 報告書刊行記念レセプション開催 現地テレビニュースで放映される

六月二十一日午後0時半から、ネパール・カトマンズのホテル・デ・アンナプルナで本会主催による考古学調査報告書『ルンビニー マヤ堂の考古学的調査一九九二―一九九五』刊行記念レセプションが開催された。

レセプションには本会から渡邊宗徹ルンビニー委員会副委員長、齋藤明聖事務総長、壽山良光国際文化部長が出席した。

また、駐ネパール日本大使館から平岡邁大使、上島正太二等書記官、松村信一三等書記官が出席。

ユネスコカトマンズ事務所からは、



渡邊ルンビニー委員会副委員長（中央左）より、ブッディ・ラジ大臣（中央右）へ報告書を贈呈。平岡駐ネパール日本大使（左）、ゴーチャンL D T副委員長（右）も列席



マヤ堂考古学調査報告書発刊記念レセプションで挨拶する齋藤明聖事務総長（右）

菅野琴所長、アンジェラ・アツォーリ文化担当官が出席。

また現地日本人会の方々も参加した。ネパール側からはブッディ・ラジ・バジュラチャリヤ文化・観光・航空大臣（L D T委員長）、オムカール・プラサド・ゴーチャンL D T副委員長、ゴビンダ・チトラカール事務総長らL D T関係者。またネパール政府考古局（DOA）、財務省、文化・観光・航空省関係からも多数参加した。

式典では、渡邊ルンビニー委員会副委員長からブッディ・ラジ大臣へ考古学調査報告書が出席者の盛大な拍手の

中、贈呈された。

続いてゴビンダL D T事務総長、ゴーチャンL D T副委員長、ブッディ・ラジ大臣、平岡駐ネパール日本大使、菅野ユネスコカトマンズ事務所長、齋藤本会事務総長がそれぞれ挨拶。本報告書の刊行を祝福した。そしてゴーチャンL D T副委員長は、現地で発掘調査に当たり志半ばで逝去された、故、上坂悟本会派遣考古学者の功績を繰り返し讃えた。

また、菅野ユネスコカトマンズ所長は、ルンビニーのみならずネパール国内の各世界遺産（例えば、カトマンズ市内のダルバール広場等）の危機的状況について説明し、遺産がネパール一国のものではなく、かけがえのない人

類の共通の遺産であること、そしてその保護と維持の重要性を訴えた。

また、齋藤事務総長は今回の発掘調査で発見された印石が、アショーク王以前に存在していた可能性が報告書に指摘されていること、またその仏教文化的意義を強調し、マヤ堂が釈尊生誕の聖地として世界の仏教徒の巡拝が盛んになり、ルンビニーが世界平和の象徴となることを希求する旨の挨拶を行った。

式典終了後、同所で懇親会が行われ盛会であった。

また、会場には現地報道関係者も出席、同日夜のテレビでは、報告書贈呈の様子が繰り返し報道され、翌日の新聞などでも幅広く報道された。

マヤ堂考古学調査記念プレート設置を要請

考古学調査報告書刊行により、本会によるルンビニー園マヤ堂考古学調査が終結した。今回のネパール訪問の目的の一つであるマヤ堂考古学調査記念

プレートを持参し、L D T及び、ブッディ・ラジ文化・観光・航空大臣（L D T委員長）にマヤ堂周辺への設置を要請した。



マヤ堂考古学調査記念プレート（780cm×520cm、真鍮製）

またカトマンズ滞在中、ギャネンドラ国王への謁見を要請した結果、サガ・プラサド・ティミルシナ文化担当侍従に王宮内で面会。報告書を贈呈するとともに、ギャネンドラ国王に宛てた本会記念プレート設置に関して善処を要請する親書を託した。

アショーカ王と仏教

マヤ堂出土印石の意味をめぐって

■駒澤大学総長 奈良康明

一、印石（マーカーストーン）

それは見たところ何の変哲もない石板だった。おおよそ七〇×四〇cm、厚さは一〇cmほどの扁平状の自然石である。しかし、この石板がルンビニー園はマヤ堂の中央真下から出てきた、ということになる、二千余年の歴史をつなぐ重要な意味を持ち始める。

アショーカ王（前二六八即位）二三



考古学発掘調査以前のマヤ堂とアショーカ石柱(左)

二）は即位後二〇年目に釈尊生誕の地であるルンビニーを訪れている。そして、石柱を立ててここが仏誕の土地であることを明示する碑文を残し、その南側に礼拝堂と思われる施設を建てた。それが今日のマヤ堂の前身である。

マヤ堂と石柱はルンビニーの目玉ともいべき文化遺産である。そのマヤ堂を全日本仏教協会が考古学的発掘調査をすることとなった。平成四（一九九二）年に始まった調査は最終段階での石板にであったのである。

石板は動かないように煉瓦で周りを固め、その下にも六層に煉瓦が敷かれている。石板のおかれているのはマヤ堂の中心で、数次の増・改築にもかかわらず、その位置は動かされていない。正にこの場所こそが釈尊が生誕された聖なるスポットであると、仏教徒が注意深く伝承していたことは疑いない。その意味でこの石板は「印石」（マー

カー・ストーン）と呼ばれるようになった。

印石の素材はルンビニーの地域には見いだされないもので、北方のシワリ



ブラフミー文字で書かれたアショーカ石柱碑文

ク山地からもたらされた含細礫砂岩である。しかし、アショーカ王がこの石を運ばせて据えたわけではない。以前からあったものを王はあらためて確認し、碑文にも読み込んだ形跡がある。

二、アショーカ王

アショーカ王はマウリヤ王朝第三代の王である。初代のチャンドラグプタ王は東インドのマガダ地方に興り、前四世紀の終わり頃、アレキサンダー大王が遠征の志むなく故国に引き返した政治的空白をついてインド統一の業を進展させた。第二代ビンドゥサラー王は父王の志を受けつぎ、さらにその息子であるアショーカ王によって、イ

ンド最南端を除く統一大帝國樹立の偉業は完成する。

アショーカ王は前三世紀の人であり、釈尊は前五〜前四世紀に活躍した人である。前七世紀から三世紀にかけては古代インド史の激動期だった。青銅器に代わって鉄の使用が始まったのはおそらく前八世紀である。それによって武器や道具の性能が一新した。手工業や農産物の生産も増大し、従来の村単位の自給自足体制は崩れ始める。余剰生産物は商品として流通し、ここに商人という新しい社会階層が出現した。交易上必要な道路や水路が発達し、市場が出来、市場を中心に都市が発生している。商人のキャラバン隊を盗賊から護るために武力を持つグループが台頭するのも自然の成り行きで、日本の平安末期に武士階級が出現したことに類似的現象がインドでも見られた。彼らは次第に王国の支配者となり、ここに従来の部族中心の国家（例えばシヤカ族の国）と王国が併存していた。仏典も釈尊の時代には「十六大国」があったと記している。両者は互いに争いつつ、インドはいわば「中原に鹿を逐う」状態がつづいた。こうした状況は次第に強大な王国同士の争いとなり、マウリヤ王朝の統一大帝國の樹立へと収斂してゆく。

戦で多くのものが殺され、また、バ

考古学発掘調査当時の祠堂



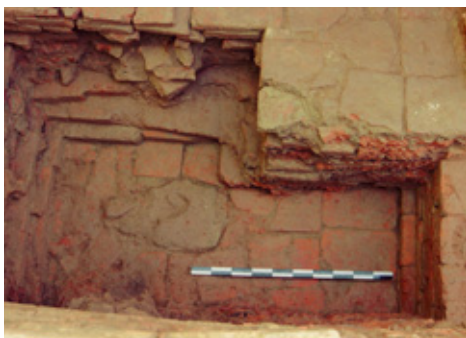
内陣内部マヤ夫人像安置状態



祠堂壁面上部除去状態



祠堂直下掘り下げ状態



印石出土(中央左) マウリア期の地層より(メジャー1目盛10cm)

ラモン主導の「供儀」儀礼で動物の生贄も普通に捧げられた。人間や動物の生命が無惨に失われていった殺伐たる時代だったのである。

こうして釈尊の時代は、大小の戦乱、農村と都市の意識の乖離、顕著な富裕層と貧窮クラスの差違、家制度と私有財産制、次第に厳密の度を増していたヴァルナ(四姓)・カースト制度の進展など、社会、経済、政治等すべての面での混乱があり、価値観が変動していた。釈尊の教えはこうした背景のうえに、主として都会に根拠をもつ王族や大商人たちを信者層としつつ発展した新宗教だったのである。

一例だが、釈尊は人間や動物の生命を尊重し、不殺生と慈悲の徳を強調した。

「すべてのものは暴力におびえてい

る。すべての(生き物)にとって生命は愛しい。(他者を)自分の身にひきあてて、殺してはならない。殺させてはならない。『ダンマパダ』一三〇、などという教えは釈尊の実体験から導き出されたもので、当時の社会に要請されていた新しい価値の提唱だったのである。

三、アシヨーカー王とダルマ(法)

そして釈尊の教えは、約一〇〇年後に、アシヨーカー王によって全インドに広まる機会を得ることとなった。アシヨーカー王が仏教に親しんでいたことは疑いない。同王は即位八年目にカリンガ(現在のオリッサ)地方を征服し「十万人を超える死者」が出たことで回心したという。以降彼は「力の政治」から「法(ダルマ)の政治」へと治世方針を転換したが、ダルマの中核になつたのは仏教の教えだった。

しかし、同王のダルマとは「仏教」そのものではない。仏教の教えに基づきつつ、あらゆる宗教の者が受容できる普遍的な倫理と生活法である。アシヨーカー王の支配する広大な地域には、部族、民族、言語、宗教、生活文化を異にする多様な人たちが住んでいる。彼らを一つの国家体制の中に組み込む普遍的な政治理念こそがダルマに他ならないし、その内容は不殺生と慈悲、そして寛容と尊敬を中心とする人間関係だったといっている。

アシヨーカー王はダルマの理念を具体的な施政方針とともに示した。それがアシヨーカー王碑文であり、ある所では石柱に、他の所では岩を平に磨いて(磨崖)記されている。ルンビニーのアシヨーカー王石柱もその一本である。

アシヨーカー王が釈尊生誕の地であるルンビニーを訪れたのは単なる仏蹟巡拝以上の思いがあったに違いない。当時すでに四大仏蹟は確定していたが、王がルンビニーという遠方辺鄙な処にわざわざ足を運んで石柱を立て、礼拝堂を建てたのは、自らの信じるダルマの精神的支柱をなす仏法への帰依と釈尊への思慕があったものと見てよい。

王は釈尊生誕の場所を示す印石に手を触れたかも知れない。いや、手を触れていることは間違いないだろう。その熱い思いを仏教徒たちは代々伝承してきた。そして、その印石は、今、私たちの眼前にその姿を現している。

以上

● 本会主催

● 個人情報保護に関する研修会開催

● 個人のデータは預かりもの

六月三日、東京の大本山増上寺三縁ホールで、本会主催の個人情報保護に関する研修会を開催した。

個人情報保護法が四月一日に施行され、各加盟団体はじめ寺院が取り扱う情報の保護・管理方法や法律について具体的な例を含め研修した。尚、定員を上回る百二十余名が参加し、熱心な研修となった。

はじめに、里見達人理事長が、宗教法人は個人情報取り扱い事業者から免除されているが、「宗教者だからこそ真摯に取り組まなくてはならない」とその必要性を述べた。

研修では長谷川正浩師（本会顧問弁護士）が、「宗教団体における個人情報保護について」個人情報保護に関する基本方針（例）と題し講演。個人情報とは、「氏名・生年月日等、個人を識別する情報のことを言い、死者に関する情報はこれに該当しない」と個人情報に関する定義を説明。

続いて、宗教法人は、個人情報を宗教活動の目的で使用する場合に限り、個人情報保護法に定める「個人情報取扱業者」から、適用除外となっている。

しかし、「必要な措置を自ら講じ、その措置の内容を公表するように努めなければならない」と述べた。寺院は現在帳など個人に関する情報を所持しているが、その情報は、「各個人のもので相手から預かっているという意識を持ち、使用目的をはっきりすること。本人から問い合わせがあったら、その情報についてきちんと答えなければならぬ」と述べた。

清水勉氏（日本弁護士連合会・情報問題対策委員会副委員長）は、「個人情報保護法の問題点と対策について」個人情報と保護法と宗教団体 どう考えて、どう対処すればいいか」と題し講演。日本弁護士連合会（日弁連）ではこの法律に関し、限られた範囲の個別的な法規制についての必要性を説いていたが、現行法では小学生や中学生も個人情報取扱事業者の対象となりうることなど問題点を指摘。

この法律に関する基本となる対策は、「今自分がどのような情報を持ち管理しているか、必要でない情報は廃棄する。そのルール造りが必要。外部から自分の情報を聞かれたとき、説明でき

るようにすること」とした。

また、アンケートを集めるときなどは目的を明記し、本人の同意を取ることが望ましいと述べた。

法人の代表者の氏名の公表は、「個人情報と言えなくはないが、代表として当然同意が得られていると考えて差し支えないのでは」と語った。

井上文夫氏（日本テンブルヴァン代表取締役）は、「コンピュータ情報管理について」講演。高度情報社会により、瞬時に何万人ものデータが送信できるようになったことから、情報の漏洩の問題と情報管理の重要性を指摘。情報の漏洩は、人為的（故意・過失）なものが七〇%以上を占めており、その人為的対策や内部管理、取扱い上のマニュアル作成の重要性を述べた。

内部管理体制の確立は勿論、パソコンの管理、元のデータとなる情報の管理、特に外部委託業者へのデータ入力について、注意が必要であると述べた。民間企業では、セキュリティの問題から、パソコンをインターネットにつながらない専用のコンピュータで管理する方法を進め、外部記憶装置（フロッピー等）のない機種の使用やパソコンの持ち出し、メールの送受信の管理など細かい管理体制を行っている」と語った。

松尾徹裕師（曹洞宗人事部文書課

長）は、「曹洞宗における取り組み」と題し、曹洞宗宗務庁の具体的な取り組みを述べた。

曹洞宗では、個人情報保護法の施行にともない、情報システムに関する「曹洞宗情報保護規定」を設定し、情報管理体制や情報開示を求められたときのルールを新たに作った。本庁と全国六十六カ所の宗務所とのデータの共有化とセキュリティ対策、データの保全を主な目的とした。しかし、セキュリティ対策を高めると利便性を損い、職員からの不満も聞かなければならず大変苦労すると述べた。

また、今年度から教育プログラムを実施し、組織として取り組む重要性を語った。

各講師の講演終了後、質疑応答が行われ、寄付者名の寺報への掲載や本堂内の掲示について質問があり、講師からは本人の承諾を得ることが望ましいと述べた。また、護摩祈願の申込み用紙の取扱いについて質問があり、講師は、申込用紙に今後行事等の案内を希望するなどのチェック欄を作ったり、情報の使用目的を明記することが望ましいと語った。

* * *

本会では、この研修会の講演録を作成し、加盟団体及び寺院に頒布する予定です。

日中友好の継続と世界平和推進のため 曹洞宗有田宗務総長が訪中

中国国内で反日感情が高まる中、曹洞宗は、五月八～十日仏教徒として両国の友好の継続と増進のため急遽、有田惠宗曹洞宗宗務総長（本会常務理事）を団長とする「日本国曹洞宗平和友好訪中代表团」を中国・北京に派遣した。

八日、訪中した代表团は、人民大会堂で何魯麗（か・ろれい）人民平和軍縮協会会長、宦国英（かん・こくえい）同副会長と会見し、有田宗務総長より宮崎奕保永平寺貫首、大道晃仙総持寺貫首の親書を奉読し手渡した。



親書を手にする何魯麗氏と有田宗務総長

にわたり、貴国並びに東アジアを中心とする地域に戦禍を及ぼし、貴国並びにアジア地域の計り知れない人々の生命と財産を侵害し、民族の誇りと尊厳性を損なう行いを為しました。曹洞宗は、このような歴史的事実を率直に認め、一九九二年十二月二十日、「懺謝文」と題して、私たちの過ちを、心から謝罪し、二度とこのような過ちを犯さない誓いを表明いたしました」とし、今後の日中友好交流に懸念を与える事態を心から憂慮し、「今後の友好な関係がさらに深まり、アジアの安定と世界平和に深く貢献できることを心から願っております。」と謳っている。

九日は、故趙樸初（ちよう・ぼくしょ）元中国仏教協会会長の霊堂を参拝し、一誠（いち・じよう）中国仏教協会会長、齊暁飛（さい・しやうひ）中国国家宗教事務局副会長や徐建国（じよ・けんこく）中国国際交流協会総幹事と会見。

十日には、北京大学や北京佛学院への訪問や釣魚台国賓館で各界の要人と懇談した後、帰国した。

第二十六回韓日・日韓仏教文化交流大会 ● 仏教を通じ、永久の友好を

六月十三日～十五日の三日間、日韓仏教文化交流協議会主催の第二十六回「韓日・日韓仏教文化交流大会」が開催された。韓国・忠清南道の曹溪宗修徳寺を会場に、両国の仏教徒約二七〇人が集まり、世界平和祈願法要・文化講演が行われた。

宮林昭彦日韓仏教文化交流協会会長は挨拶の中で、植民地支配など過去の「歴史的事実」について「二度と繰り返してはならない。」と遺憾の意を述べた。両国の長い歴史のなかで一時期の不幸な出来事が、これからの友好関係を損なうことがないように願うと語った。これに対し韓国側は、不幸な歴史を繰り返さないという意志が十分に理解できたと歓迎する旨を述べた。



本会会長の祝辞を代読する
齋藤明聖事務総長

午前中の世界平和祈願法要の中で、全日本仏教会藤井日光会長の祝辞を齋藤明聖事務総長が代読した。今年の日韓国交回復四十周年の記念すべき年であり、仏教は国を超え民族を超えるもので、両国関係者に敬意と感謝を捧げる。二〇世紀は戦争の歴史であったという反省が生かされることなく、今なお世界各地で悲惨な殺戮と環境破壊が続いている。釈尊の説かれた仏教は、すべてのいのちを大切にす共生の思想であり、すべてのいのちは縁によって互いに関係しあう縁起の法である。今大会が「自然環境と生命倫理」と題して開催されることは、時機に適切、且つ、意義甚大であるとされた。

午後の基調講演の中で、日本側からは大正大学教授の多田孝正師が、パキスタンにあるモヘンジョダロ遺跡を例に、現代の「心の時代」をどのように過ごしていくか、それには仏教を正しく理解し、実践していくことが大切である。また、先の大戦で亡くなった朝鮮半島出身の身元不明者の遺骨問題や竹島問題など課題は山積しているが、仏教を通じて解決に尽力していきたいと多田師が述べた。

暑中お見舞い申し上げます

曹洞宗宗務庁

管 長 宮崎 奕保
 宗務総長 有田 惠宗
 参 議 南澤 道人
 参 議 藏山 光堂
 教学部長 葦原 正憲
 総務部長 乙川 暎元
 人事部長 荒井 源空
 教化部長 清成 昭典
 出版部長 志保見 道元
 伝道部長 西村 喜侯
 財政部長 宮崎 英輝

東京都港区芝二一五一—二
 〒105-8544 ○三(三三四五)五四一—
<http://www.sotozen-net.or.jp>

浄土真宗本願寺派

総 長 不二川 公勝
 総 務 武田 昭英
 総 務 桑羽 隆慈
 総 務 宮崎 憲之
 総 務 後藤 壽邦
 総 務 橘 正信
 本願寺宗務本願寺部
 センター所長 涌水 邦英
 親鸞聖人七五〇回
 大連筆佛事務所長 本多 隆朗
 教学伝道研究
 センター所長 上山 大峻
 会 行 事 今小路 覚真
 総局公室長 藤田 誓之

京都市下京区堀川通花屋町下ル
 〒600-8501 ○七五(三七)五一八一—
 F A X ○七五(三五)一一一一—

真宗大谷派

宗務総長 熊谷 宗惠
 参 務 安原 晃
 参 務 藤野 護
 参 務 杉浦 義孝
 参 務 長務 下谷 泰史
 参 務 推進本部長 竹田 惠示
 参 務 繁盛運動推進部長

京都市下京区烏丸通七条上ル
 〒600-8505 ○七五(三七)九一八一代表

浄土宗

浄土門主 中村 康隆
 宗務総長 水谷 幸正
 総務局長 福嶋 照純
 教学局長 岡本 宣丈
 財務局長 曾和 義雄
 社会国際局長 松本 眞岳
 文化局長 入西 勝彦
 総長公室長
 宗祖法然上人
 八百六十年事務局長 豊岡 瞭尔
 人権同和室長 浅野 義光
 職 員 一 同

浄土宗宗務庁
 京都市東山区林下町四〇〇—八
 〒605-0062 ○七五(五二五)二二〇〇代
 F A X ○七五(五二五)一〇〇五
 東京都港区芝公園四一七一—四
 〒105-0011 ○三(三四三三)三三五一代
 F A X ○三(三四三四)〇七四四
<http://www.jodo.or.jp>

日蓮宗宗務院

管 長 藤井 日光
 宗務総長 岩間 湛正
 伝道局長 栗原 正震
 総務局長 中條 令紹
 伝道部長 田端 義宏
 教務部長 中里 観正
 総務部長 垣本 孝精
 財務部長 渡辺 照敏
 宗務総長 遠藤 文祥
 現代宗教
 研究所長 田澤 元泰
 参 与 堀江 宏正
 参 与 浅井 玄裕

東京都大田区池上一一三二—一五
 〒146-8544 ○三(三七五)一七一八一
 F A X ○三(三七五)一七八六
<http://www.nichiren.or.jp/>

暑中お見舞い申し上げます

総本山金剛峯寺
高野山真言宗務所

管座長主 資延敏雄

執行総長 土生川正道

総務部長 真田有範

執行部長 岩坪真弘

法会部長 高岡隆州

山林部長 篠田光海

執行部長 高橋智運

内事部長 佐々木弘傳

同和局長 佐々木兼俊

企画室長 富家海信

教学部次長 倉岡弘叔

東京別院主監
東京宗務出張所所長 服部融宣

和歌山県伊都郡高野町高野山一三二
〒648-0294 〇七三六(五〇)二〇一一
FAX 〇七三六(五〇)四六四〇
<http://www.koyasan.or.jp>

臨濟宗妙心寺派

管長 西片義保

宗務総長 細川景一

総務部長 松井宗益

教学部長 栗原正雄

財務部長 松山英照

花園会長 一色宏襄

法務部長 川島謙宗

花園館長(兼) 松井宗益

京都市右京区花園妙心寺町六四
〒616-8035 〇七五(四六三)三二二一
<http://myoshin.com/>

天台宗務庁

天台座主 渡邊惠進

宗務総長 西郊良光

総務部長 工藤秀和

法人部長 稲岡慈順

財務部長 久保智尚

参学部長 小堀光實

参社会部長 秦順照

参一隅を照らす
運動総本部長 壬生照道

大津市坂本四丁目六番二号
〒520-0113 〇七七(五七九)〇〇二二
FAX 〇七七(五七九)二五一六

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院法務所

管主長 宮坂宥勝

宗務総長 島秀隆

総務部長 佐藤玲秀

教学部長 里見秀明

教化部長 久志卓世

法務部長 倉松隆観

財務部長 司東和光

宗務出張所
別院執事 廣橋義敬

京都市東山区東大路七条下ル
東瓦町九六四
〒605-0951 〇七五(五四)二五三六一

真言宗豊山派宗務所

管長 鳥居慎譽

宗務総長 浅井侃雄

総務部長 中川祐聖

財務部長 鈴木道雄

教化部長 根岸榮宏

教務部長 菅野秀浩

教化センター長 田代弘興

真言宗豊山派総合研究院 院長 加藤精一

東京都文京区大塚五―四〇―八
〒112-0012 〇三三(九四五)〇六三九

暑中お見舞い申し上げます

天台眞盛宗宗務所
総本山西教寺

管長 山本孝圓

宗務総長 西村 問紹

教学部長 武田 圓龍

庶務部長 勝田 秀譽

財務部長 稲葉 克也

社会部長 三津 堯賢

滋賀県大津市坂本五―三―一
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

総本山仁和寺
眞言宗御室派

管門 長跡 佐藤 令宜

執行宗務総長 中井 龍照

総執務部長 大塚 聖純

執教学部長 宮本 光研

執財務部長 打田 祐善

京都市右京区御室大内三三
〒616-8092 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六一)四〇七〇
http://www.ninajior.jp
E-mail: office@ninajior.jp

顕本法華宗

管長 中山 日暁

宗務総長 中村 通義

宗務次長 島田 幸晴

財務部長 藤崎 行学

布教部長 早川 義正

教務部長 桑村 信慶

社会部長 多門 顕正

庶務部長 津村 乘信

京都市左京区岩倉幡枝町九十一
〒606-0015 〇七五(七九一)七二七
FAX 〇七五(七九一)七二六七

西山浄土宗
総本山光明寺

法管 主長 岩田 文有

執宗務総長 柴田 康英

内局 一同

京都府長岡京市粟生西条ノ内二六一
〒617-0811 〇七五(九五五)〇〇〇二
http://www.komyo-ji.com

金峯山修験本宗
総本山 金峯山寺

管長 五條 順教

執宗務総長 田中 利典

奈良県吉野郡吉野町吉野山
〒639-3115 〇七四(六三三)八三七一
URL: http://www.kinpusen.or.jp

眞言三寶宗
大本山清澄寺

法管 主長 坂本 光謙

宗務長 岡田 康秀

執行長 有井 良隨

鉄斎美術館 村越 英明

宝塚市米谷字清シ一番地
〒665-0837 〇七九七(八六六)六六四一
FAX 〇七九七(八六六)六六六〇
http://www.kiyoshikojin.or.jp

大本山大覚寺
眞言宗大覚寺派宗務庁

管門 長跡 片山 宥雄

執行宗務総長 坂口 博翁

京都市右京区嵯峨大沢町四
〒616-8411 〇七五(八七一)〇〇七一
FAX 〇七五(八八一)四九一一

暑中お見舞い申し上げます

<p>京都府宇治市五ヶ庄三番割三四 〒611-0011 〇七七四(三三)三九〇〇 FAX 〇七七四(三三)六〇八八</p>	<p>管 長 仙石泰山</p> <p>宗務総長 赤松達明</p> <p>財務部長 秦旭光</p> <p>庶務部長 中澤元重</p> <p>教学部長 荒木将旭</p>	<p>黄檗宗大本山萬福寺 黄檗宗宗務本院</p>
<p>京都市伏見区醍醐東大路町二二 〒601-1325 〇七五(五七)〇〇〇二 FAX 〇七五(五七)三三九三九 http://www.daigoji.or.jp</p>	<p>座管 主長 麻生文雄</p> <p>宗務総長 仲田順和</p> <p>執行部長 岡田祐雄</p> <p>総務部長 岡田祐雄</p> <p>教学部長 田村照晃</p> <p>財務部長 壁瀬宥雅</p>	<p>真言宗醍醐派宗務本庁 総本山醍醐寺寺務所</p>
<p>大阪市平野区平野上町 〒547-0045 〇六(六七九)〇〇二六</p>	<p>法管 主長 白井慈勲</p> <p>宗務総長 山田隆章</p> <p>寺務総長 山田隆章</p> <p>教学部長 辻康彦</p> <p>庶務部長 久保良方</p> <p>財務部長 塩野善彬</p>	<p>融通念佛宗 総本山大念佛寺</p>
<p>神戸市須磨区須磨寺町四一六一八 〒654-0071 〇七八(七三)〇四一六</p>	<p>貫主 小池弘三</p> <p>寺務長 吉井恵貫</p>	<p>本山佛光寺 真宗佛光寺派</p>
<p>横浜市神奈川区鳥越三八 〒221-0064 〇四五(四三)一一〇〇一</p>	<p>宗務総長 山内日開</p> <p>講 有 小山日誠</p> <p>宗務総長 山内日開</p> <p>副統理 岡野鄰子</p> <p>副統理 岡野正純</p>	<p>本山看浄寺 〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入 滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一 TEL 〇七五(四六)四六二〇代 FAX 〇七五(四六)四六五一 本門佛立宗 宗務本庁 〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る 東堅町一〇番地 TEL 〇七五(四六)一一一六代 FAX 〇七五(四六)五五九九 URL http://www.honmon-huisu-yushin.or.jp/</p> <p>孝道山 本仏殿</p> <p>統理 岡野正貫</p>

暑中お見舞い申し上げます

<p>滋賀県仏教会</p> <p>会 長 山本孝圓</p> <p>副会長 田中始更</p> <p>監 査 黒川英正</p> <p>同 少徳昭雄</p> <p>事務局長 前阪良憲</p> <p>滋賀県大津市坂本五―一三―一 <small>総本山西教寺内</small> 滋賀県仏教会事務局 〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三 F A X 〇七七(五七八)三四一八</p> <p>聖観音宗 浅草寺</p> <p>貫 首 清水谷 孝尚</p> <p>執事長 五十嵐 意承</p> <p>東京都台東区浅草二―三―一 〒111-0032 〇三(三八四)〇一八一 F A X 〇三(三八四五)六九三三</p>	<p>新潟県仏教会</p> <p>会 長 中村啓識</p> <p>全仏評議員 春日浩三</p> <p>副会長 浅平 真</p> <p>同 上原教仁</p> <p>同 春日教雄</p> <p>同 高橋英文</p> <p>事務局長 小林秀徳</p> <p>長岡市上田町二―二五 徳聖寺内 〒940-0074 〇二五八(三三三)一五八六</p> <p>法相宗</p> <p>管 長 多川俊映</p> <p>奈良市登大路町四八 〒630-8213 〇七四二(一一)七七五五 法相宗興福寺</p>	<p>財団法人 埼玉真佛教会</p> <p>会 長 酒井文雄</p> <p>副会長 腰塚麟也</p> <p>同 藤田得三</p> <p>同 萩野映明</p> <p>専務理事 穂山教雄</p> <p>常務理事 金剛秀房</p> <p>同 石垣源順</p> <p>さいたま市浦和区高砂 四―一三―一八 〒330-0063 〇四八(八六一)二一三八 F A X 〇四八(八六四)六六四九 http://saibutuner/</p> <p>臨濟宗円覚寺派</p> <p>大本山 円覚寺</p> <p>鎌倉市山ノ内四〇九 〒247-0062 〇四六七(一一)〇四七八 http://www.engakuji.or.jp/</p>
<p>信貴山真言宗 総本山朝護孫子寺</p> <p>管 長 鈴木鳳永</p> <p>前管長 田中真瑞</p> <p>宗務長 鈴木貴晶</p> <p>寺務長 野澤密孝</p> <p>奈良県生駒郡平群町信貴山三二八〇―一 〒636-0923 T E L 〇七四五(七)二二七七 F A X 〇七四五(七)二二七七</p> <p>宗教法人 念法真教 総本山 金剛寺</p> <p>大阪市鶴見区緑三―四―二二 〒538-0054 〇六(六九二)二二〇一</p>	<p>兵庫県仏教会</p> <p>会 長 雲井世雄</p> <p>副会長 足立有教</p> <p>同 濱田諭稔</p> <p>同 森 日洸</p> <p>兵庫県神戸市兵庫区兆逆瀬川町一 〒652-0837 〇七八(六五二)一七一五 能福寺内</p>	<p>東京都仏教連合会</p> <p>会 長 成田有恒</p> <p>理事長 大谷博通</p> <p>事務局長 垣内善勝</p> <p>東京都葛飾区柴又六―十七―二十 〒125-0052 〇三(三六五七)四五八八 F A X 〇三(三六五七)八五六三</p>

暑中お見舞い申し上げます

<p>宝塚市中山寺二丁目十一番一 〒665-8588 ○七九七(八七)〇〇二四 FAX ○七九七(八七)九八七七 http://www.nakayamadera.or.jp</p> <p>真言宗中山寺派</p> <p>大本山中山寺</p>	<p>京都府仏教連合会</p> <p>理事長 佐藤 諦学 理事 不二川 公勝 同 熊谷 宗恵 同 細川 景一 同 島川 秀隆 同 仲田 順和 同 杉若 恵隆 同 野原 泰見 同 畔柳 正顕 同 桃井 晋城 同 伊藤 喬淳 同 柴山 昌実 同 豊田 元彦 同 大谷 義博 同 成田 隆徳 同 貴田 善澄</p> <p>事務総長 貴田 善澄 京都府東山区林下町四〇〇 〒605-8686 ○七五(五三二)一一一一 浄土宗総本山知恩院内</p>
<p>法主 加藤 円住</p> <p>時宗 総本山清浄光寺(遊行寺)</p> <p>神奈川県藤沢市西富一―八―一 〒251-0001 ○四六六(二三)七二七六</p>	<p>京都仏教会</p> <p>会長 東伏見 慈治 理事長 有馬 頼底 常務理事 荒木 元悦 同 宮城 泰年 同 平野 映哉 同 大西 真興 同 江上 泰山 同 安井 攸爾 同 森伯 泰長 同 佐園 文英 同 北川 隆法 同 北木 康稔 同 山澤 泰信 同 月沢 香静</p> <p>事務所長 長沢 香静 京都市上京区今出川通烏丸東入 相國寺前町六八四―一 〒602-0898 ○七五(一一三)六九七五 FAX ○七五(一一三)六九七六 http://www.kbo.gr.jp/ Email: staff@kbo.gr.jp</p>
<p>貫管主長 東條 仁哲</p> <p>真言宗犬鳴派 大本山 犬鳴山七宝瀧寺</p> <p>大阪府泉佐野市大木八番地 〒598-0023 ○七二四(五九)七一〇一 FAX ○七二四(五九)七一〇一</p>	<p>神奈川県仏教会</p> <p>会長 横山 敏明 副会長 本間 孝康 同 倉田 隆常 同 長尾 徳順 同 藤井 良晃</p> <p>事務所長 井沢 孝一 横浜市中区大平町九六 西有寺内 〒231-0859 ○四五(六六)〇一六六</p>
<p>新義真言宗</p> <p>東京都文京区湯島四―六―一二 湯島ハイタウンB―一二―一 〒113-0034 ○三(三八)三四六四</p>	<p>愛知県仏教会</p> <p>会長 近藤 真道 副会長 玉井 康之 同 吉田 教行 同 岡島 博司</p> <p>名古屋市中区昭和区高峯町四八 普蔵寺内 〒466-0811 ○五二(八三)九七二〇</p>
<p>同 二神 瑞隆</p> <p>副会長 井田 隆照</p> <p>松山市土居町一〇五九 万福寺内 〒791-1115 ○八九(九五七)七三四二</p>	<p>愛媛県仏教会</p> <p>会長 挟間 敬宗</p> <p>大阪府住吉区墨江三―十七―八 大圓寺内 事務所 〒558-0043 ○六(六六)七(三)三二五九 FAX ○六(六六)七(三)五〇〇四</p> <p>會長 増田 貞圓</p>

暑中お見舞い申し上げます

<p>静岡県裾野市千福三八七 普明寺内 〒410-1116 〇五五(九九二)一一七六</p> <p>会 長 岡 安 成</p> <p>静岡県仏教会</p>	<p>財団法人 仏教伝道協会</p> <p>会 長 沼 田 智 秀</p> <p>理 事 長 信 楽 峻 磨</p> <p>理 事 高 崎 直 道</p> <p>同 福 山 諦 法</p> <p>同 永 野 健</p> <p>同 中 西 智 海</p> <p>常務理事 高 島 孝 範</p> <p>監 事 林 行 雄</p> <p>同 中 野 東 禅</p> <p>東京都港区芝四一三一四 〒108-0014 〇三(三四五五)五八五一</p>
<p>札幌市中央区北三条西十九丁目二一 浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内 〒060-0003 〇一一(六一)九六二三</p> <p>会 長 山 内 教 嶺</p> <p>北海道仏教会連盟</p>	<p>社団法人 全日本仏教婦人連盟</p> <p>名誉会長 鷹 司 誓 玉</p> <p>会 長 大 谷 貴 代 子</p> <p>副 会 長 稲 山 靈 芳</p> <p>同 大 賀 美 都 子</p> <p>同 末 廣 久 美</p> <p>理 事 長 島 田 喜 久 子</p> <p>事務局 長 林 恵 智 子</p> <p>東京都渋谷区千駄ヶ谷 四一五一一二F 〒151-0051 〇三(五七七二)〇六七七 F A X 〇三(五七七二)〇六七七 http://www.12oonne.jp/~ajbwa/</p>
<p>福島県郡山市香久池二一九一四 法久寺内 〒963-8833 〇二四(九二二)二八二四</p> <p>事務局 長 熊 田 享 海</p> <p>専務理事 石 田 宏 寿</p> <p>会 長 鈴 木 張 広</p> <p>福島県仏教会</p>	<p>財団法人 国際仏教興隆協会</p> <p>印度山日本寺 竺 主 中 村 康 隆</p> <p>理 事 長 安 田 暎 胤</p> <p>役 員 一 同</p> <p>東京都目黒区中目黒五二二四一五三 〒153-0061 〇三(三七一一)七六〇八 F A X 〇三(三七一一)七六七三 http://villageinfoved.net/~tygf 1070/home.htm E-mail: ibba@nifty.com</p>
<p>東京都板橋区舟渡四一五一一 〒174-0041 〇三(三九六七)三二八八</p> <p>理 事 長 中 山 静 磨</p> <p>財団法人 日本佛教鑽仰会</p>	<p>岐阜県仏教会</p> <p>会 長 寺 町 研 山</p> <p>理 事 長 杉 山 令 憲</p> <p>岐阜市西野町三一 岐阜西別院在会所西側入口 〒500-8882 〇五八(二六六)七八〇三 F A X 〇五八(二六六)七八〇三 http://bukkyogifunet/</p> <p>鳥取県仏教連合会</p> <p>会 長 谷 本 正 道</p>
<p>天台寺門宗 和宗 妙見宗 真言宗善通寺派 真言宗山階派 真言宗泉涌寺派 真言宗国分寺派 東寺真言宗 浄土宗西山禅林寺派 浄土宗西山深草派 真宗高田派 真宗興正派 真宗本願派 臨濟宗南禅寺派 臨濟宗建長寺派 臨濟宗相国寺派 臨濟宗東福寺派 法華宗本門流 法華宗陣門流 法華宗真門流 本門法華宗 華嚴宗 聖徳宗 真言律宗 律宗 青森県仏教会 岩手県仏教会 群馬県仏教連合会 栃木県仏教会 茨城県仏教会 千葉県仏教会 石川県仏教会 福井県仏教会 山梨県仏教会 長野県仏教会 和歌山県仏教会 島根県仏教会 岡山県仏教会 香川県仏教会 (社)徳島県仏教会 高知県仏教会 福岡県仏教連合会 福岡県仏教連合会 長崎県仏教連合会 宮崎県仏教連合会 沖縄県仏教会 (社)日本仏教保育協会 (財)仏教振興財団 東京ブデイストクラブ 全日本仏教青年会 仏教情報センター</p>	

より良い葬儀とは 葬儀業界と懇談

六月十五日、東京プリンスホテルを会場に、本会と葬儀業界の葬祭ディレクター技能審査協会が懇談会を行った。本会から里見達人理事長、齋藤明聖事務総長はじめ事務総局から四名が出席した。

はじめに、里見理事長が挨拶し、続いて、松井昭憲葬祭ディレクター技能審査協会会長が挨拶した

人の死という厳粛な場であるはずの葬儀が、伝統的な価値観が薄まり、簡略化や宗教離れ等の様々な問題を抱える現状にあって、率直な意見交換を行った。本会からは、葬儀日程等事前の打ち合わせや、布施について葬儀社側で決めてしまうこと等問題点を指摘。葬儀業界からは、事前に必要な法具等について寺院側に用意してもらいたい旨や通夜・葬儀の場で、会葬者に対して、もっとお話しをしてほしいとの要望があった。

今後、一般社会の人たちに対しての葬儀のあり方について、建設的な提案を行って行かなければならないと言う共通な認識のもと、仏教界、葬儀業界双方で交流対話のできる場を作ることが合意された。

ルンビニー委員会

五月十七日午後二時から、本会議室で、第一回ルンビニー委員会が開催された。

はじめに松原委員長の退任により委員長の選出が行われ、委員互選により本間孝康師（副委員長・神奈川県仏教会）が委員長に選出された。副委員長には渡邊宗徹師（学識経験者）が選出された。

続いて考古学調査報告書「ルンビニー マヤ堂の考古学的調査一九九二～一九九五」、並びに「ルンビニー園復興事業の歩み」が完成したことが事務局より報告された。

そしてこの報告書刊行を以て、本会のルンビニー園復興事業の終結とすることが確認された。

また五月二十四日、リーガロイヤルホテル東京でマヤ堂考古学調査報告会を開催（本誌四頁掲載）し、報告会終了後、ネパールに赴き報告書をネパール側に贈呈するとともに、現地において広く考古学調査の成果を公にする場を設けることが確認された。

また、ネパール側に考古学調査記念プレートを依託し、マヤ堂周辺への設置を要請することも確認された。

信教の自由に関する委員会

六月三十日、本会議室で本年度一回目の委員会が開催された。

はじめに三帰依文を唱和し、齋藤明聖本会事務総長が、里見達人理事長の諮問書の中尾史峰委員長に手交した。

諮問事項は、①靖国神社への首相及び閣僚の公式参拝中止の要請について、②日本国憲法改正論議における本会の対応についての二点。先の理事会・評議員会の議題となった憲法改正論議については、本委員会、同和委員会、国際委員会に同様の諮問がなされ、それぞれの立場から本年中に答申を行うこととなった。

各委員所属の教団の憲法改正論議の取り組みは、統一した見解や表明がまだ為されて居らず、一部の宗議会決議や教団所属の研究機関からの報告のみである。

今後は各教団の資料提供や各委員会との合同の研修会の実施を行うこと等の提案がなされた。また、委員からは、「仏教徒の姿勢はあくまでも『不殺生』であり、当然戦争放棄、平和を促進する姿勢であるべきだ」という意見が述べられた。次回九月五日に第二回の委員会を開催することが合意された。

本会救援基金への御礼

「救援基金」に対し、温かいご協賛を賜っておりますこと心より御礼申し上げます。

皆さまから寄せられた浄財の内、いくつかご紹介いたします。

高野山真言宗では、今春、災害等へ迅速に対応するため「社会事象対策準備室（仮称）」を設け、本会に寄託頂き、また、臨済宗妙心寺派花園会本部では、スマトラ沖地震被災地救援のため各教区の花園会に義捐金活動を呼びかけ、一部を寄託頂きました。

今後も加盟団体の皆さまには引き続き救援基金への浄財のご寄託をお願いいたします。

〈寄付団体・個人一覧〉

・高野山真言宗・臨済宗妙心寺派花園会本部・曹洞宗滋賀県事務所・埼玉県佛教会・滋賀県信楽町仏教会・滋賀県大津市青少年教化協議会・神奈川県鶴見区仏教会・長野県長野市仏教会・古屋泰三・本会研修会での募金
（四月一日～七月十日）

合計三、七九三、八四二円

【郵便振替】

口座名義 全日本仏教会救援基金

口座番号 〇〇二〇一九一七〇四八三四

●お問い合わせ

財団法人 全日本仏教会事務総局

事務総局録事

五月(十一～三十一日)

- 十一日 ▼庭野平和賞贈呈式出席
- 十二日 ▼事務総局局内会議
- ▼国際仏教興隆協会監査会出席
- ▼法律相談室
- 十三日 ▼WCRP国際事務総局長来局
- ▼和宗四天王寺坂本徳雄長騰本山葬参列
- 十四日 ▼妙智會宮本会長米寿祝賀会出席
- 十六日 ▼改革推進委員会
- 十七日 ▼ルンビニー委員会
- ▼事務総局局内会議
- 十八日 ▼国際仏教興隆協会理事・監事会
- ▼監査会
- 十九日 ▼国際小委員会
- ▼同和委員会
- 二十日 ▼文化庁訪問
- ▼インド大使館書記官送別会出席
- ▼第二十一回東大寺文化講演会出席
- 二十三日 ▼全青協・正力松太郎賞表彰式出席
- 二十四日 ▼理事会・評議員会
- ▼ルンビニー園マヤ堂考古学調査報告会、レセプション開催
- 二十五日 ▼民主党大躍進パーティー出席
- ▼自由民主党との懇談昼食会出席
- 二十六日 ▼真言各派同和講習会出席
- ▼法律相談室
- 二十七日 ▼佐世保仏教会会長来局
- 三十日 ▼事務総局局内会議
- ▼部落解放同盟前中央執行委員長上田卓三氏通夜参列

六月(一～三十日)

- 一日 ▼文化庁訪問
- 三日 ▼個人情報保護に関する研修会開催
- ▼文化庁来局
- 四日 ▼真宗大谷派主催、同朋大会出席
- ▼全青協主催、名僧墨跡展訪問
- 六日 ▼仏教NGOネットワーク企画委員会出席
- 七日 ▼滋賀県仏教会訪問
- 九日 ▼事務総局局内会議
- ▼法律相談室
- 十日 ▼東京都仏教連合会総会出席
- ▼ネパール大使館訪問
- 十三日 ▼神奈川県仏教会事務局訪問
- 十三～十五日 ▼日韓仏教文化交流第二十六回修徳寺大会出席(ソウル)
- 十四日 ▼民主党の憲法意見交換会出席
- 十五日 ▼葬儀業界との懇談会
- 十六日 ▼仏教NGOネットワーク運営委員会・総会出席
- 十七日 ▼日宗連幹事会
- ▼インド大使館書記官送別会出席
- ▼内閣官房・外務省・文化庁来局
- 十九～二十六日 ▼ルンビニー園マヤ堂復興事業・考古学調査報告書贈呈式、考古学調査記念プレートを贈呈(ネパール)
- 二十日 ▼関西事務局運営委員会
- ▼日蓮宗・立正平和の会主催、憲法九条を守るシンポジウム出席
- 二十一日 ▼人権啓発研究会
- ▼文化庁来局
- 二十二日 ▼同和推進担当者研修会

七月(一～十日)

- 二十四日 ▼文化庁訪問
- ▼法律相談室
- 二十八日 ▼部落解放人権研究所総会出席
- 二十九日 ▼改革推進正副委員長会議
- ▼長野市仏教会来局
- ▼事務総局局内会議
- 三十日 ▼信教の自由に関する委員会
- ▼事務総局局内会議
- 四日 ▼日本仏教讃仰会・東京お盆まつり出席
- 五日 ▼同和委員会
- ▼滋賀県仏教会総会出席
- 六日 ▼事務総局局内会議
- 七日 ▼曹洞宗被差別戒名追善法要参列
- ▼日宗連理事會幹事会
- 八日 ▼「いま平和を求めて」討論集会出席
- 十日 ▼ネパール皇太子来日歓迎会出席
- 二十四日 ▼文化庁訪問
- 二十八日 ▼部落解放人権研究所総会出席
- 二十九日 ▼改革推進正副委員長会議
- ▼長野市仏教会来局
- ▼事務総局局内会議
- 三十日 ▼信教の自由に関する委員会
- ▼事務総局局内会議
- 四日 ▼日本仏教讃仰会・東京お盆まつり出席
- 五日 ▼同和委員会
- ▼滋賀県仏教会総会出席
- 六日 ▼事務総局局内会議
- 七日 ▼曹洞宗被差別戒名追善法要参列
- ▼日宗連理事會幹事会
- 八日 ▼「いま平和を求めて」討論集会出席
- 十日 ▼ネパール皇太子来日歓迎会出席

人事

- 就任
 - 理事 森田 俊朗(和宗)
 - 評議員 坂本 峰徳(和宗)
 - 坂本 観泰(全日本仏教青年会)
 - 山下 昭文(曹洞宗)
 - 西山 慈晃(浄土真宗本願寺派)
 - 藤田 哲史(真宗大谷派)
 - 入西 勝彦(浄土宗)
 - 中條 令紹(日蓮宗)
 - 高橋 智運(高野山真言宗)
 - 松山 英照(臨濟宗妙心寺派)
 - 工藤 秀和(天台宗)
 - 廣橋 義敬(真言宗智山派)
 - 根岸 榮宏(真言宗豊山派)
 - 岡野 正純(孝道教団)
 - 新倉 典生(東京都仏教連合会)
 - 本間 孝康(神奈川県仏教会)
 - 吉田 教行(愛知県仏教会)

哀悼

野口日騰師
六月七日遷化 九十六歳
法華宗陣門流元管長

退任

- 加藤 公俊(和宗)
- 羽生 裕彦(全日本仏教青年会)
- 長澤 香静(京都仏教会)
- 貴田 善澄(京都府仏教連合会)
- 増田 貞圓(大阪府仏教会)
- 坂本 観泰(全日本仏教青年会)
- 林 恵智子(社)全日本仏教婦人連盟
- 松濤 弘道(事務総長推薦)
- 一島 正眞(事務総長推薦)
- 戸松 義晴(事務総長推薦)
- 松永 然道(事務総長推薦)

◆今月の表紙について◆

【釈尊生誕地ルンビニー】(ネパール)
仏教の四大聖地であるルンビニーは、カトマンズの南西二五〇キロに位置する。写真は二〇〇三年五月、ネパール政府が再建したマヤ堂。

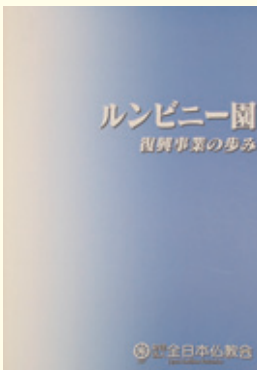
訂正

前号(五〇九号)七頁・「哀悼」欄において、四月二十日遷化されました真言宗大覚寺派前管長・上井寛圓(下)のご尊名を上井寛之師と誤って掲載致しました。
正 上井寛圓師
誤 上井寛之師
謹んで訂正させて頂きますと共に、不手際によりご迷惑をおかけしましたこと、関係各位に心よりお詫び申し上げます。

ルンビニー園マヤ堂復興事業



「ルンビニー マヤ堂考古学的調査 1992～1995」
A4版 上製箱入り 本文245頁
図版入 頒布価格10,000円(税込)



「ルンビニー園 復興事業の歩み」
A4版 無線綴じ 本文144頁
頒布価格1,000円(税込)

マヤ堂考古学調査報告書と ルンビニー園復興事業の歩みを発行

このたび本会は報告書『ルンビニーマヤ堂の考古学的調査一九九二～一九九五』を発刊しました。

本報告書は一九九二～一九九五年まで本会が行ったネパール王国ルンビニー園マヤ堂の考古学調査結果をまとめたものです。

本会から現地に派遣され発掘に携わった上坂悟氏は、本報告書の完成を待たず二〇〇三年逝去されました。今般、その遺志を継いで、上坂氏の恩師の坂詰秀一立正大学元学長の監修の下、刊行の運びとなりました。

内容はマヤ堂の考古学的考察を中心とし、新たに発掘調査の結果を踏まえ、塚本啓祥東北大学名誉教授がアショールカ石柱碑文の新解釈を論述されました。また本書では今回の調査でマヤ堂直下から出土した印石は、アショールカ王がこの地を訪れる以前から存在し、尊崇の対象となっており、その石を保護するために石柵あるいは構造物が建てられた可能性を指摘しています。

その他、遺構および出土遺物の図版等が豊富に収録されています。

また本報告書の発刊に合わせて、本会のルンビニー園復興事業の取り組み全般をまとめた記録冊子『ルンビニー園復興事業の歩み』も刊行されました。

本書では奈良康明駒澤大学総長が仏教文化史的視点から釈尊生誕の地ルンビニーの持つ意味と、本会が二十有余年に亘り取り組んできた事業の道程を詳述されました。また報告書から塚本名誉教授の論考と坂詰教授の結言も抜粋し収録しました。

今回、両書を実費にて頒布させて頂くことになりました。ご希望の方は、住所・氏名・電話番号・FAX番号・希望書名・希望部数を明記の上、左記までFAXでお申し込み下さい。

『ルンビニー マヤ堂の考古学的調査 一九九二～一九九五』 一冊 一万円
『ルンビニー園復興事業の歩み』 一冊 千円

※送料はご負担願います

申し込み先

FAX 〇三—三四三七—三二六〇

全日本仏教会 国際文化部

奈良国立博物館 特別展「古密教」

●日本密教の胎道

平安時代、空海によって日本に密教が伝えられた以前より、すでに奈良時代にも多くの密教教典が伝えられておりました。

これまで見過ごされがちであった奈良時代の密教に焦点を当て、中国国外ではじめて展示される十一面観音菩薩像(河南博物院)、秘仏の国宝・吉祥天像(薬師寺)など拝観の機会が得たい宝物が展示されます。



会期：7月26日(火)～9月4日(日)

※休館日は月曜日

開館時間：9:30～17:00

観覧料金：一般1,000円 学生700円

小・中学生400円 団体割引あり

主催：奈良国立博物館

会場：奈良国立博物館(奈良公園内)

お問い合わせ：電話0742(22)3331

上野・不忍池 ●とうろう流し

7月17日東京・下谷仏教会では、第56回目の「流灯会」を上野公園の一角にある弁天堂でお盆の精霊供養法要と共にを行いました。

法要後、仏教会の会員が不忍池のボートに乗り、精霊の法名をつけた灯籠千余基を流しました。

池の周りには、夏の夜風に誘われた人たちが揺れ動く灯りを見つめ、町中とは思えぬ風景を映じていました。



弁天堂と不忍池

国立文楽劇場第9回特別企画公演 天台宗開宗1200年

●比叡山延暦寺の声明

日本歌謡の源泉として、天台宗総本山延暦寺法儀音律研究部が出仕し、天台声明の優雅な美しさと、仏教音楽の神秘を披露いたします。

日時：9月3日(土) 3時開演

曼陀羅供 一胎心両界合行-

9月4日(日) 1時開演

六道講式 一二十五三昧式-

会場：国立文楽劇場

大阪市中央区日本橋1-12-10 地下鉄・近鉄(日本橋)駅下車徒歩1分

入場料：一般5,000円 学生3,500円 2日券8,000円

国立劇場チケットセンター 0570(03)3333

※ぴあ、ローソンチケットでも8月11日より発売



六道講式